

## 「介護支援専門員の活動性を正当に評価するためのデータベース作成」に関する報告

活動性を評価するためのアンケート(第1回ケアマネジャー連絡会総会時に配布)の集計結果

	はい	いいえ	無回答	合計	「はい」の 回答者割合
<b>《直接ケアの提供》</b>					
⑤失禁を発見した時、自ら汚染されたオムツや寝衣・寝具を交換した事がある	41名	7名		48	85.4%
⑥訪問介護や通所介護利用中に体調が悪化し、自ら緊急受診に同行した事がある	28名	20名		48	58.3%
⑦訪問介護や通所介護利用中に利用者が不在で居場所を問われた時自自行方を捜した事がある	26名	22名		48	54.2%
②外来診察に同席するついでに通院送迎を頼まれた事がある	22名	26名		48	45.8%
①ヘルパーに自宅に届く郵便物の確認や選別はできないと言われ、代わりに行った	20名	28名		48	41.7%
③ねずみや、ノミ等の害虫駆除を行い住環境を整えた事がある	17名	30名	1名	48	35.4%
④生活保護受給者等金銭管理を行えない人の金銭管理を行った事がある	13名	35名		48	27.1%
<b>《その他のケース》</b>					
⑪介護とは関係のない家族自身の不安等吐露された時自ら傾聴し不安の軽減に努めている	45名	3名		48	93.8%
⑩災害が発生した時、自ら安否確認を行った。	34名	14名		48	70.8%
⑧急変時に救急車への同乗をし、家族が来るまで繋いだ事がある	26名	22名		48	54.2%
⑨(生活保護の方)ケースワーカーから住居探しを頼まれ自ら住居を探した事がある	8名	40名		48	16.7%
<b>《ケアマネジメントの提供》</b>					
⑭入院、入所中の方に対する退院前カンファレンスに出席している	41名	7名		48	85.4%
⑫要介護認定前の暫定居宅サービス計画書を作成したにもかかわらず、サービスに繋がらなかった事がある	31名	16名	1名	48	64.6%
⑬入院、入所中の方に対する退院後の暫定居宅サービス計画書作成を行ったにもかかわらず、サービスに繋がらなかった事がある	26名	21名		48	54.2%
⑮プラン作成の際、家族本意にならず本人の意向に添ったプラン作成が行えている(どちらとも6名あり)	26名	13名	3名	48	54.2%

## 考察・まとめ

今回のアンケートを集計した中で、①選択肢の部分、②自由記述の部分で考察を述べさせていただきます。

① 選択肢の部分では、データからも見て判るように本来の業務以外の事も、業務の一環として担っているMCが多く、業務量に拍車を掛けている現状があります。

直接ケアの提供→本来なら誰が援助する？と考え行うのではなく、自然と体が動いている。やり過ぎ？と思っけていても、その線引きはCMそれぞれの価値観や思いで左右されます。

ケアマネジメントの提供→この部分については、評価してほしいという思いが強くあり、内容的には暫定プランの調整に、病院や施設等に何度も足を運び結果的に、プラン利用にならず報酬に至らなかったケースです。サービス調整に人や時間が掛かっているのにゼロです。今後更なる調整や医療ニーズが必要なケースが増えていく事も予想され、活動性の評価として行政や市民に強く訴えたいと思います。

② 自由記述の部分「困難ケース」では、独居、老老介護、精神疾患、家族関係等の問題等は事例として多く、現代社会の問題が反映されています。

いずれの事例に対しても、個々のCMによって感じ方も様々であり、価値観や経験等の差もありケアマネジメントを行う上で、CM自身が行政、包括、在支、保健所等相談の窓口は何処で、どの様に相談して良いか？日々不安と葛藤しながら対応していると考えられました。

アンケート全般においての結果からも判るように、CMの活動は孤独であると思います。一人で悩み考えても現実は待ってくれず、目の前に問題があれば、活動しなければならず、休んでいる暇は無いのです。前向きに活動に対しての評価があれば、CM自身の気持ちの整理、消化が出来るのではないかと思います。

また、別紙にて常盤平地区高齢者支援連絡会専門部会で、取り上げられた事例を参考資料として添付しました。CMの皆様に参考として頂ければ幸いです。

介護保険制度が導入され、12年が過ぎようとしています。CMという存在は、まだまだ周知、理解されていない現状があります。ご利用者様やCM自身の活動性評価の為に、継続活動して行きたいと考えています。

終わりにアンケート調査にあたり、ご協力頂きましたCMの皆様に御礼を申し上げます。